

秋季彼岸会永代経法要

講題 親鸞聖人直筆のお正信偈にふれる

講師 義本 弘導師

2021年9月20日(月)



皆さんお参りして下さるか心配しましたが、沢山の方がワクチン接種やマスク着用、消毒などご協力頂きまして、間隔を空けて本堂が満堂に。お陰様で法要を勤修することが出来ました。お勤めは「仏説阿弥陀経」。



この度の帳場は廣瀬さんと榎木さんが勤めて下さいました。

瓜生さんが亡くなられて約1年空いていた総代の1席ですが、

あ おきみちのぶ
青木道信さんが快く引き受け、務めて下さることとなりました。

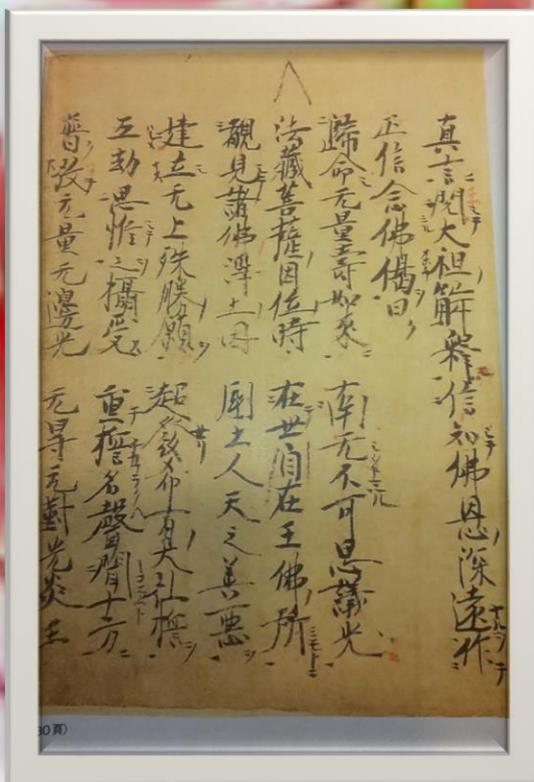
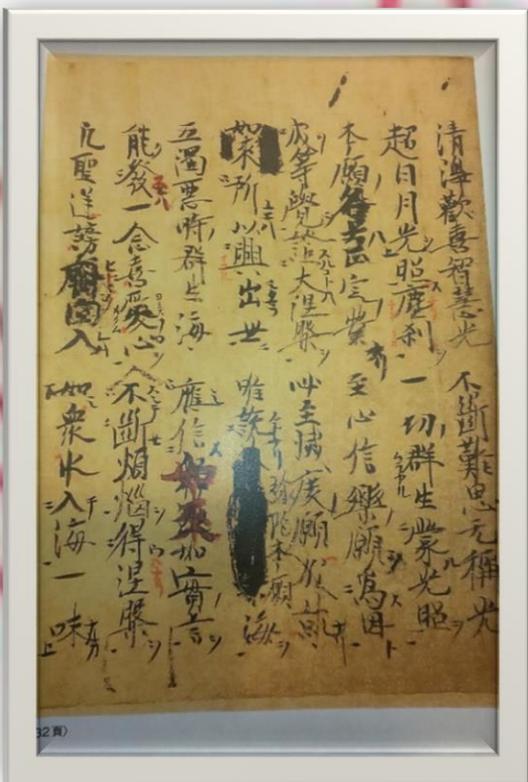
これより今井さん・西野さん・青木さん。3名の総代さんです。

改めて、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

写真、後ろ
姿ばかりで
ごめんなさ
い(▽^:)



義本先生が親鸞聖人直筆のお正信偈の一部のページをコピーされ、それを資料として配布して下さいました。そちらを拝見しながらのお聴聞です。



親鸞聖人は幼少期様々な飢饉にあわれ、皆を救いたいと20年もの間、比叡山で厳しい修行をされました。しかし修行を続けても自力では人を救うことは出来ないと断念し下山。法然上人に教えを仰がれました。

沢山の執筆の中、『教行信証』に「正信念仏偈」が記されています。ほぼ完成しても何年もの間、何度も何度も考察を繰り返された形跡を見られるのがこの資料です。義本先生は一部を解説しながら親鸞聖人の御苦勞は私たちのためであったことを教えて下さいました。



法要の後には境内の納骨壇でお勤めをしました。皆さん、お墓参りだけでなく、お聴聞もして下さい有り難いご縁でした。

**亡き人に
願われて
手を合わす**

なもあみだぶつ
南無阿弥陀仏

この度も、有り難い御法縁をお取り継ぎいただいたこと
でございました。

なんまんだぶ

